

虫垂炎ってなあに？

健康
通信

常陸大宮済生会病院 外科消化器科医員 増子 駿

皆さんは「盲腸」を知っていますか？外来などで手術歴を聞くと「盲腸をやったことがある」とおっしゃる方がいますが、医学的には虫垂の炎症のことを指します。

虫垂は盲腸という大腸から出ている突起物でその名の通り虫のように垂れていることから名づけられました。虫垂は右下に位置し長さは人それぞれです。

【虫垂炎の原因】

原因としては現在はっきりとはしていません。しかし、糞石（便の塊）が虫垂にはまったり虫垂がねじれたりして閉塞することで細菌が繁殖し、感染することが原因と考えられています。

【虫垂炎の症状】

症状としては腹痛、嘔吐、下痢、発熱など様々な症状があり症状全て出るかは人それぞれです。腹痛では発症初期ではみぞおちの辺りが痛くなり、その後右下腹部に痛みが移動する特徴があります。

時間が経過すると虫垂の炎症が腹膜（お腹を覆う膜）に拡がり腹膜炎に至ることもあります。腹膜炎に至ると手でお腹を押した時よりも離れた時の方が痛んだり、お腹全体が硬くなったりします。

【虫垂炎の治療】

治療は抗生物質の点滴や内服による保存的治療と手術による治療の2種類があります。

基本的には抗生物質による治療で良くなりますが、炎症が悪くなったり具合が悪い場合が手術を行う場合があります。

手術ですが、一昔前は右下腹部を5cm程度切る開腹手術が主流でしたが、現在はおへそに小さな傷をつけて行う腹腔鏡が主流になってきています。当院でも積極的に腹腔鏡手術を取り入れています。

虫垂炎は幼児から高齢者まで幅広い年齢層に起きる病気のため、美容的に気にする方には腹腔鏡手術を勧めています。

しかし、炎症がひどく腹腔鏡だけでは安全に手術ができない場合は、開腹に移行する可能性もありますのでご了承ください。

また、当院では抗生物質の点滴で炎症を押さえて約3ヶ月後に腹腔鏡手術を行い、虫垂を切除する待機的手術も行なっています。一旦炎症が落ち着いても再発する可能性もありますので、予防目的に手術をすることも可能です。特に、中高年層以上で虫垂炎になられた方で稀に「虫垂がん」が隠れていることがありますので、炎症が良くなった後も大腸カメラをすることをお勧めします。お腹の右下あたりが痛いなどの症状がありましたら、お気軽にご相談ください。

※救急受け入れの人数を月別に表しています。（休日・時間外を含む）

常陸大宮済生会病院救急患者受入状況

